

ローザ・レッセさん逝去

日本白鳥の会の設立当初から、私たちの会をあたたく見守っていただいていたローザ・レッセさんが、2002年1月22日に亡くなりました。93歳でした。

ローザさんは、1908年にベルリンで生れ、1929年客船「諏訪丸」で来日しました。1932年アイヌを訪ねて北海道を旅行し、本州にもどる船上で京都大学農学部の植物生態学者・高橋健治博士に出会い、翌1933年に結婚し、京都に住むようになりました。

ローザさんは、長年翻訳や慈善活動など、国際交流に貢献してきました。その一方で、日本の自然にも強い関心をもっており、ご主人と二人でよく日本アルプスに登ったり、スキーを楽しんだりしたということです。自然への関心は鳥にも向けられ、日本の白鳥について世界に紹介したり、日本白鳥の会を支援してきました。1971年には吉川繁男さんと本田清さんを同伴してシベリア鉄道経由で渡欧し、イギリスのスリムブリッジで開催された第一回世界白鳥会議に参加し、瓢湖のハクチョウについて紹介しました(Rose 1973)。また、1973年6月24日に東京で行なわれた本会の設立総会には、モア・ジョイ会(国際相互理解のための非営利団体、1955年設立)理事長として参加され、その後も浜頓別町のクッチャロ湖で開催された研修会にも参加されています。

なお、長野県小谷温泉にローザさんを記念する資料室が設けられる計画があるとのこと。また、ハクチョウに関する論文としては、次の2編があります。このうち、1973年の論文は上述の第一回世界白鳥会議での報告要旨です。

Rose, L., 1971. The whooper swans of Hyoko. *Wildfowl* 22: 120-121.

Rose, L., 1973. Hyoko: winter habitat of wild swans at Suibara. *Wildfowl* 24: 33-41.

(文責：藤巻裕蔵、この文を書くにあたっては、ご遺族からいただいた年表「ローザ・レッセさんの薔薇の生涯」と斉藤清明氏が書いた新聞記事「ローザ・レッセさん」を参考にし、また松井繁名誉会長に補足していただきました。なお、ローザさんの氏名の日本語表記については、松井繁名誉会長あての信書に日本語で「ローゼ・レッサー」とサインされていましたが、ここではご遺族からいただいた年表に従いました。)